

Beamer

熊吉

滋賀大学

日付

定理 1

直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。

定理 1 (続き)

直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。

定義 1

ABCdef0123 平面幾何学において円周の長さを、その直径で割って得られる値は円の大きさに関わらず一定の値を取る。この値を円周率といい π と書く。

定理 2

直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。

定義 2

ABCdef0123 平面幾何学において円周の長さを、その直径で割って得られる値は円の大きさに関わらず一定の値を取る。この値を円周率といい π と書く。

定理 2 (続き)

直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。